様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３２６１８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ０１９３０

研究課題名（和文）産業衰退後の地域社会における子どもたち生活史：炭都夕張のアーカイブ構築

研究課題名（英文）Study on Life History of Miners' Children and Construction of Digital Archive of Yubari

研究代表者
笠原　良太（Kasahara, Ryota）

実践女子大学・生活科学部・講師

研究者番号：２０８４６３５７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：主な研究成果は、以下の３点である。第一に、東京・札幌大夕張会会員を対象に実施した高度成長期の炭鉱での生活に関する質問紙調査の結果を報告書にまとめ、炭鉱労働者家族・子どもの企業に対する帰属意識を明らかにした。第二に、質問紙調査の回答内容と当時の写真を結びつけたデジタルアーカイブ「大夕張アーカイブ」を構築・公開した。第三に、産業・地域・家族の関連について、産業内・産業間比較を行い、雑誌論文や学会報告にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
学術的意義は、第一に、戦後日本における石炭産業と炭鉱労働者の生活・移動に関する社会学研究に、子どもの視点を加え、産業構造転換が地域・企業・家族の状況を介して、子どもに長期的影響をもたらしていたことを明らかにした点である。第二に、収集した生活史を写真資料と結びつけて保存する元住民参加型のデジタルアーカイブを構築し、生活史研究とアーカイブ研究の接合を試みた点である。そして社会的意義は、成果報告書やアーカイブをとおして、戦後日本における産業構造転換や自然災害等で故郷を喪失した人たちが、自らの経験を相対化できる機会を提供した点にある。

研究成果の概要（英文）：The three main research findings are as follows. First, the report presents the results of a questionnaire survey on life in the coal mines during the high-growth period, conducted among members of the Tokyo and Sapporo Oyubari association. The study clarified coal miners‘ families’ and children's sense of belonging to the company. Second, a digital archive, the ‘Oyubari Archive’, was constructed and published, linking the questionnaire survey responses with photographs. Third, we made intra-industry and inter-industry comparisons of the relationship between industry, region and family, and summarised the results in journal articles and conference reports.

研究分野：社会学

キーワード：石炭産業　地域社会　ライフコース　故郷喪失　アーカイブズ　労働者家族　子ども

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

本課題は、戦後日本の基幹産業であった石炭産業の構造転換と炭鉱労働者のキャリア形成およびその家族のライフコースに関する研究（正岡ほか 1998-2007; 高橋編 2002 など）、職縁にもとづく炭鉱社会の共同性に関する研究（武田 1963; 布施編 1982 など）の系譜に位置づく研究である。研究代表者である笠原と研究分担者である嶋﨑は、本課題開始の前年度まで、釧路炭田の都市炭鉱（太平洋炭砿）に関する研究（嶋﨑ほか編 2019）ならびに山間の中規模炭鉱（尺別炭砿）に関する研究（嶋﨑・笠原ほか 2020）に取り組み、炭鉱労働者とその子どもの生活史を収集・分析してきた。そこでは、職縁・学縁・血縁・地縁にもとづく炭鉱社会の共同的性格を明らかにし、高齢期に移行したかつての「ヤマの子ども」の人生回顧と同郷者の再結合のプロセスを記録・記述してきた。これらの研究成果を相対化するべく、本課題では、国内有数の炭都である夕張市の事例研究に取り組んだ。また、収集した生活史を地元資料（写真）と結びつけてアーカイビングする新たな方法を検討するため、夕張をフィールドにアーカイビング研究に取り組む水島（東海大学）と青木隆夫氏（元夕張市石炭博物館館長）との共同研究を開始した。

２．研究の目的

本研究の目的は、高度成長期後半に閉山した財閥系大手炭鉱を対象に、共同的社会における子どもの生活と進路、その後の人生移行過程、衰退する地域社会との関わり・望郷について解明し、彼らの生活史を記録・継承することである。具体的には、①産業に規定された共同的な社会を対象に、当時は自明であった産業・地域・企業・家族との関連を浮き彫りにすること、②炭鉱の閉山によって故郷を喪失した人びとへの追跡調査を実施し、子どもが産業構造転換というマクロな現象を、地域・家族の状況を介してどのように経験したのかを明らかにすること、③高齢期をむかえた彼らが、故郷喪失経験をいかに意味づけているのか、生活史から質的に把握すること、④これらの生活史を、高度成長期の衰退産業における子どもの人生経験として、写真・映像資料と結びつけて記録・継承することの４点である。

３．研究の方法

本研究は、石炭産業の漸次的撤退期（1960 年代後半から 1970 年代前半）に衰退・閉山した三菱大夕張炭鉱（夕張市鹿島地区）を対象に、同郷会（東京・札幌大夕張会）の協力のもと、会員（元住民）の生活史を収集し、地元資料の収集・整理をおこなった。新型コロナウィルス感染症の影響で調査開始が大幅に遅れたが、２年目以降、以下の調査を実施した。

① 質問紙調査

「あなたにとっての『大夕張』を教えて下さい」というタイトルの質問紙調査を、郵送法（一部、集合法）、自記式でおこなった。質問項目は、炭山コミュニティの春夏秋冬、印象深い出来事・場所・人、閉山・離山後の大夕張との関わりなどであり、自由記述方式で回答してもらった。同郷会会員 249 名を対象とした悉皆調査で、有効回答は 104 票、有効回収率は 43.9%（宛先不明等 12 票を除く）であった。

② インタビュー調査

東京大夕張会会員５名、札幌大夕張会会員６名を対象に、座談会形式でおこなった。その際、当時の生活を思い出す手がかりとして、映像・写真資料を提示した。異なる世代・居住区（階層）の人たちで構成されるグループでは、多様な生活史の収集に成功した。また、元中学校教員や夕張市内在住者への個別インタビューも実施した。調査項目は、炭山コミュニティでの生活、学校、進学・就職、離山後の職業・家族生活キャリア、大夕張との関わりなどである。

③ 地元資料の収集・デジタル化

水島・青木による大夕張関連資料（映像 15 点・写真 899 点など）の整理およびデジタル化、上記質問紙調査の回答内容との紐づけ・メタデータの生成をおこなった。また、同郷会総会等で会員に写真等の提供を呼びかけ、多くの資料をコレクションに追加した。加えて、大夕張地区を含む夕張市の教育について把握するため、市内小中学校・高校に関する資料を所収する「ゆうばり歴史・教育資料室」（市立夕張中学校内、夕張市教育委員会管轄）を訪問し、夕張市教育委員会と協定を結んだうえで（2021 年８月）、資料目録の作成とデジタル化など、資料レスキューを進めた。

４．研究成果

主な研究成果は、以下の３点である。第一に、質問紙調査の結果を東京大夕張会総会（2023 年 11 月）で報告し、報告書「あなたにとっての『大夕張』を教えて下さい――ふるさとの思い出をつづり、つながる」を発行した。回答用紙には、それぞれの故郷に対する思いが隙間なく書かれていた。それらの「思い出」を分析する軸として、「大夕張に居住していた期間」に着目し、回答者を３つのグループ（①中学卒業まで大夕張に居住、②子ども時代に離山、③大夕張外出身）に分け、思い出の重なりや共通項、それぞれの特徴を明らかにした。

具体的には、大夕張を代表する自然（山・川・雪など）や炭鉱、企業（三菱）などは、共通の思い出として挙げられる一方、小児マヒ流行（1960 年）や有名人来山といった出来事は、グループごとに想起する内容が異なっていた。

特筆すべき点は、①のグループを中心に、炭鉱や企業、労働組合など、父兄の職場・所属組織に言及している点である。これは、上記の先行研究で指摘されているように、炭鉱労働者家族の生活が石炭の生産と労働力の再生産を中心に展開していたこと、労働者の子どもが直接関わることのない炭鉱会社・財閥系企業に強い帰属意識を持っていたことを示す。先行研究によれば、高度成長期の成長産業における大手企業は、企業内福利厚生制度をとおして従業員家族の企業帰属意識・企業忠誠心を培養し、従業員の定着を図った（目黒・柴田 1999）。同時代の石炭産業は、急速に衰退していたものの、三菱大夕張炭鉱のようなビルド鉱（高能率炭鉱の育成）では、企業内福利厚生制度が手厚く、従業員子弟の企業帰属意識・忠誠心が培養されたと考えられる。なにより、「三菱」に対する誇りや感謝を表現する回答が多く、なかには同市内の北海道炭砿汽船（北炭）の炭鉱と比較しながら、三菱の優位性を強調する回答もみられた。そうした帰属意識が高齢期に移行しても持続し、同郷会活動などのリユニオンを促していると考えられる。

以上のような多層的な思い出を、地元の豊富な写真資料（大夕張アーカイブ）とあわせて報告書に掲載した。また、同報告書には、三菱大夕張炭鉱社内報の分析結果（嶋﨑）ならびに「大夕張アーカイブ」構築の記録（水島）を掲載し、地元資料の価値と保存の意義を示した。同報告書は、調査回答者と夕張市教育委員会、関係機関に配布するとともに、早稲田大学リポジトリに登録し、広く公開する予定である。

第二に、「大夕張アーカイブ」の構築である。上記質問紙調査で得られた回答内容（事実情報、関係情報、心象情報）と地元資料（写真）を結び付けたデジタルアーカイブである。データセットの中心に画像を置き、名称・帰属情報、時間情報・空間情報、意味群情報、説明情報などが取り囲むイメージで情報が登録される構造になっている。また、検索機能があり、メタデータ上で共通するキーワードが、写真等のイメージを結びつける。このアーカイブは、オンラインで公開されており（https://oyubari.archive.balog.jp/）、同郷会会員をはじめ大夕張にゆかりのある人たちが、同じ場所・施設・出来事に関する多様な思い出を参照できる。さらに、このアーカイブは、元住民が新たな写真や思い出を追加できるように設計されており、「参加型アーカイブ」、「アクティブアーカイブ」の試みである。今後、インタビュー調査の語りや作文・日記等の一次資料の情報も順次追加して、内容を充実させていく予定である。

第三に、高度成長期における産業・地域・家族の関連について、産業内・産業間比較を行い、雑誌論文や学会報告にまとめた。本研究助成初年度には、高度成長期における石炭産業の若年労働力養成と家族戦略（笠原）、石炭産業のライフサイクルと炭鉱労働者家族の生活・女性就労（嶋﨑）についての論文が『家族社会学研究』33 号に掲載された。また、資料アーカイブ・メディア研究の観点から、夕張市内の北海道炭砿汽船（北炭）系炭鉱に関する調査結果を地元公開講座等で報告し、地域に還元した（水島・青木）。さらに、1950 年代から 60 年代にかけての北海道内農村や全国の他産業地域で編まれた日記、生活綴方・版画文集を収集・分析し、その結果を日本社会学会や「生活綴方・版画文集を掘り起こす」シンポジウムなどで、学会報告としてまとめた（笠原）。

そのほか、研究助成期間には間に合わなかったが、分析可能な資料が多く残っているため、2024 年度以降も成果を順次公開していく。たとえば、1960 年代前半における新規中卒者の進路と教員による進路指導について、質問紙調査・インタビュー調査の結果と職安・学校の資料をもとにまとめている。1950 年代末の合理化以来、炭鉱への就職はほとんど閉ざされるなか、若年労働力の移出は、地域社会の課題であった。奥まった大夕張から道外への就職は、新規中卒者にとって容易ではなかったが、道外の事情に通じた教員による進路指導によって、京浜地区を中心とした道外への就職経路が形作られた。また、三菱系企業への就職が多いことも特徴である。こうした高度成長期北海道における産業・地域衰退下での中卒就職・移動の動態を、2024 年６月の北海道社会学会で報告し、雑誌論文としてまとめる予定である（笠原）。

＜引用文献＞

- 布施鉄治編，1982，『地域産業変動と階級・階層』御茶の水書房.
- 正岡寛司・藤見純子・嶋﨑尚子・澤口恵一編，1998-2007，『炭砿労働者の閉山離職とキャリアの再形成――旧常磐炭砿 K.K.砿員の縦断調査研究 PARTⅠ～Ⅹ』.
- 目黒依子・柴田弘捷，1999，「企業主義と家族」目黒依子・渡辺秀樹編『講座社会学　２　家族』東京大学出版会: 59-87.
- 嶋﨑尚子･中澤秀雄･島西智輝･石川孝織編，2019，『太平洋炭砿――なぜ日本最後の坑内堀炭鉱になりえたのか　下巻』釧路市教育委員会.
- 嶋﨑尚子・新藤慶・木村至聖・笠原良太・畑山直子，2020，『〈つながり〉の戦後史――尺別炭砿閉山とその後のドキュメント』青弓社.

- 高橋伸一編，2002，『移動社会と生活ネットワーク——元炭鉱労働者の生活史研究』高菅出版.
- 武田良三，1963，『炭鉱と地域社会』早稲田大学社会科学研究所.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 笠原良太	４．巻 -
２．論文標題 石炭産業の漸次的撤退と閉山離職者の子どものライフコース――雄別炭砿株式会社尺別炭砿の閉山と中学生に関する追跡研究	５．発行年 2022年
３．雑誌名 早稲田大学大学院文学研究科博士学位論文	６．最初と最後の頁 1-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 廣本由香・笠原良太・嶋﨑尚子・大倉季久・西城戸誠	４．巻 10
２．論文標題 特集4 RILAS研究部門「知の蓄積と活用に向けた方法論的研究」 RILAS研究部門「知の蓄積と活用にむけた方法論的研究」第13回研究会記録 ライフコース論×環境社会学	５．発行年 2022年
３．雑誌名 早稲田大学総合人文科学研究センター研究誌 = WASEDA RILAS JOURNAL	６．最初と最後の頁 387-407
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 嶋﨑尚子・笠原良太・坂田勝彦・平井健文	４．巻 1
２．論文標題 樺太引揚者の炭鉱への移動プロセスーーその構造と経験に関する実証的研究	５．発行年 2023年
３．雑誌名 JAFCOF 樺太研究会 リサーチ・ペーパー	６．最初と最後の頁 1-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 笠原良太	４．巻 33
２．論文標題 なぜヤマの子どもは炭鉱マンになったのか――鉱業学校の展開と世代間継承	５．発行年 2021年
３．雑誌名 家族社会学研究	６．最初と最後の頁 204～211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4234/jjoffamilysociology.33.204	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 笠原良太	4．巻 758
2．論文標題 石炭産業の転換と「閉山の子どもたち」のライフコース	5．発行年 2021年
3．雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6．最初と最後の頁 91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 嶋崎尚子	4．巻 33
2．論文標題 特集のねらい――産業・地域から家族の何がみえるのか――	5．発行年 2021年
3．雑誌名 家族社会学研究	6．最初と最後の頁 177～182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4234/jjoffamilysociology.33.177	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 嶋崎尚子	4．巻 33
2．論文標題 石炭産業のライフサイクルと炭鉱労働者家族――労働過程の変容と女性就労――	5．発行年 2021年
3．雑誌名 家族社会学研究	6．最初と最後の頁 194～203
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4234/jjoffamilysociology.33.194	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 笠原良太
2．発表標題 高度成長期における産業衰退と若年労働力の移出――北海道内炭鉱の企業・学校・家族と中学生の進路
3．学会等名 日本社会学会
4．発表年 2022年

１．発表者名 水島久光
２．発表標題 ゆうばりアーカイブ2022 ーコロナの時代と地域映像ー
３．学会等名 鹿之谷ゼミナール
４．発表年 2022年

１．発表者名 青木隆夫・水島久光
２．発表標題 ゆうばりアーカイブ2023・春 ―わたしたちの夕張と地域映像の研究会―
３．学会等名 ゆうばりアーカイブ
４．発表年 2023年

１．発表者名 笠原良太
２．発表標題 石炭産業の転換と「閉山の子どもたち」のライフコース
３．学会等名 大原社会問題研究所月例研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 笠原良太
２．発表標題 『鳥栖のつむぎ』を読む　ーライフコース論からの応答ー
３．学会等名 環境社会学会研究例会
４．発表年 2022年

１．発表者名 水島久光
２．発表標題 夕張新炭鉱災害の記憶と映像
３．学会等名 第89回鹿之谷ゼミナール
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	嶋崎　尚子 (Shimazaki Naoko) (40216049)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	水島　久光 (Mizushima Hisamitsu) (30366075)	東海大学・文化社会学部・教授 (32644)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	青木　隆夫 (Aoki Takao)		元夕張市石炭博物館館長

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関